



国際サンゴ礁年2008について

サンゴ礁保全のための国際的枠組みである国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)は、平成18年10月にメキシコで開かれた総会において、「サンゴ礁と関連生態系の生態的、経済的、文化的な価値についての理解、そして、そのサンゴ礁が重大な危機に直面しているという理解を広めること。」等を目的に、今年、2008(平成20)年を国際サンゴ礁年として指定しました。そのため、世界各国でサンゴ礁の保全や普及啓発にかかわる様々な行事が開催されています。

国内においても、「国際サンゴ礁年2008」の趣旨に賛同した企業、マスコミ、NGO、自治体、研究者、個人等が集まって推進委員会やワーキンググループを作り、昨年12月9日のオープニングイベントを皮切りに、「知ろう！行こう！守ろう！」のキャッチフレーズのもと、様々なイベントや保全活動を行っています。

「国際サンゴ礁年2008」のHP(<http://www.iyor.jp/>)では、趣旨に賛同して実施するイベントやキャンペーン、保全活動等の活動を随時紹介しており、活動の登録は1年間を通じて受け付けています。「国際サンゴ礁年2008」の活動を行いたいという皆様からの登録を是非ともお待ちしております。

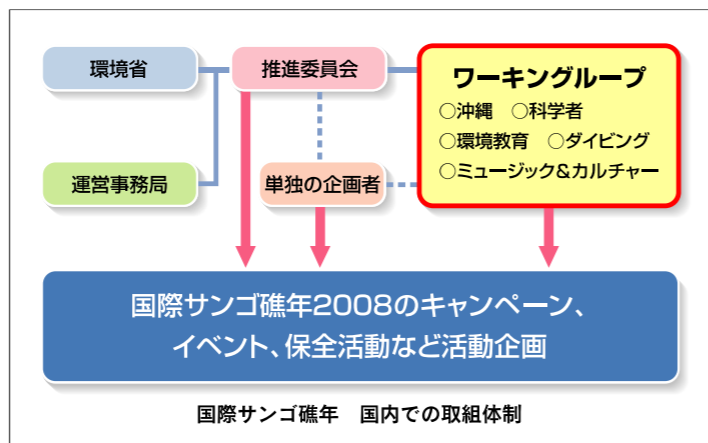


国際サンゴ礁年イベント

(左:はいさいフェスタ(川崎市)、右:みどりフェスタ(新宿御苑))



イメージキャラクター「礁太くん」とそのなかまたち



※協議会、シンポジウムの資料や議事録は、ホームページでご覧になれます (<http://shizensaisei.com/>)

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 那覇自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内
【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279
【E-mail】okironc@coremoc.go.jp 【自然再生ホームページ】<http://shizensaisei.com/>

石西 自然再生 礁湖

石西礁湖自然再生 ニュースレター 2008.5

7

島人の宝 豊かな海を 守る

第7回 石西礁湖自然再生協議会が開催されました

自然再生推進法に基づく「石西礁湖自然再生協議会」が平成18年2月に設置され、石西礁湖の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻すための取り組みが進められています。

今回のニュースレターでは、第7回協議会の様子をご紹介します。

石西礁湖(せきせいしょうこ)の自然再生を目指す「石西礁湖自然再生協議会」の第7回協議会を、平成20年3月22日(土)に石垣市で開催いたしました。

今回の協議会では、「生活・利用に関する検討部会」及び環境省の自然再生事業実施計画についての説明がありました。

また、前回に引き続き、「陸域対策」、「普及啓発」、「資金メカニズム」の3つのテーマに分かれて、自然再生事業の実施及び行動計画の作成に向けたグループディスカッションを行いました。

今回のニュースレターでは、グループディスカッションの様子を中心にご紹介します。



協議会全体の様子



土屋会長による挨拶

Group Discussion

石西礁湖自然再生事業の実施に向けて

第2回 グループディスカッション

～自然再生行動計画の作成～

自然再生推進法では、事業を実施しようとする各主体が「自然再生事業実施計画」を作成することとなっています。しかし、様々な主体が協働して事業を実施していくために、もう少し緩やかな枠組みとして、法律に定められたものではありませんが「行動計画」という指針を作成することも有効だと考えられます。そこで、今回のグループディスカッションにおいては、この行動計画の検討も含めた議論を行いました。

赤土及び栄養塩の流出防止に関する情報交換



①陸域対策(赤土・生活排水等の流入対策)

座長:大見謝辰男(沖縄県八重山福祉保健所 生活環境班長)

- 赤土条例により開発事業からの流出は止まっている。
- 農地からの赤土流出防止には、対策の指導だけではなく、農家が喜ぶシステムづくりが必要。
- 牛糞や家庭の残飯、浄化槽の排水までも堆肥として農地に還元できるようなシステムが望ましい。
- 現在、県では赤土汚染及び栄養塩に関する新たな環境基準をつくっている。
- 島ごとに特色を捉え、様々な社会システムを構築していく必要がある。



行動計画作成に向けた方向性とシステムづくり



②普及啓発(サンゴ礁保全の意識向上・広報啓発)

座長:瀬岡和夫(東京工業大学大学院情報理工学研究所 教授)

- コアメンバーを選出し、作業ミーティングを行う。
→**メーリングリストやブログ等の情報基盤整備**を行う。
- <作業1>普及啓発に関する内容やターゲットについて整理をする。
- <作業2>すでに取組んでいる内容とそうでない内容を明確に整理する。
- 次回の協議会では課題を明確にし、それに対して具体的にアクションを起こせる議論を行う。



早急な資金メカニズムの構築に向けた具体策の提案



③資金メカニズム

座長:恵 小百合(美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会)

- できるだけ早く運営を開始するために、行動計画や実施計画を必要としない。
- 協議会委員が必要とする資金をサポートする基金を目指す。**
- コアメンバーでメーリングリストを立ち上げ、①寄付金の受け皿、②運営事務局、③運営方法を具体化する。
- 石西礁湖自然再生協議会の規約について、寄付金等に関する細則の改正を検討していく。
- 運営事務局は行政機関ではなく、別途、運営機能を持った機関を想定する。



石西礁湖は いま

シリーズ⑦

2007年度のオニヒトデ発生状況について

サンゴを食べる生き物としてよく知られているオニヒトデは、春から夏にかけて雌雄が放卵・放精し、生育条件がよければ生後2年の夏には直径20cmほどに成長して、繁殖可能になります。



▲オニヒトデ

石西礁湖を含む八重山周辺海域のサンゴ礁は、1970年代後半から1980年代前半にかけて、オニヒトデの大発生により壊滅的な被害を受けました。一旦、オニヒトデの個体数は減少しましたが、2001年度以降、再びオニヒトデが目立ち始め、2007年度には前年度を大幅に上回る個体数が確認されました。

2007年12月に環境省が実施した「オニヒトデ分布調査」では、オニヒトデの観察総個体数は前年度の約2倍に増加しており(図1)、年明けに行った「広域モニタリング調査」でも、1地点あたりの目撃数が前年度の約7倍でした。また、観察されたオニヒトデの多くが直径20cm以下と小型で、特に2006年に生まれたと推定される直径15cm未満の個体が多く確認されました。

このような調査結果を受け、環境省では1月末から3月まで延べ14日間にわたって、9海域から11,456個体のオニヒトデを駆除しました。その他、八重山ダイビング協会、竹富ダイビング組合、八重山漁業協同組合なども、積極的なオニヒトデ駆除を実施しています。

オニヒトデもサンゴ礁生態系の一員です。しかし、大発生するとサンゴが衰退してしまうため、美しい景観や生物多様性が失われ、また、地元の水産業や観光業などにも大きな被害が出てしまいます。今後とも十分な調査を行ってオニヒトデの発生状況を把握するとともに、地域で話し合い、サンゴ礁を保全すべき海域において重点的・戦略的な対策を実施していく必要があります。

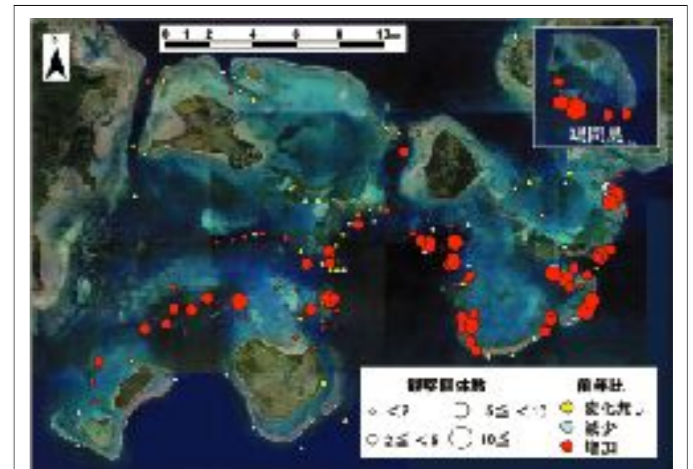


図1.2007年度環境省オニヒトデ分布調査結果を基にした、オニヒトデ観察数の変化(前年度との比較)

Gallery

石西礁湖ギャラリー



▲石垣島最北端の平久保崎
(パラグライダー空撮 石垣島 2007)



▲七色に映える石西礁湖
(ヘリコプター空撮 小浜島 1994)



▲コンドイ浜の黄昏時
(竹富島 2004)

大塚 勝久 写真集

西表石垣国立公園記念写真集「島の原風景」石垣島・八重の島々より
2008年7月1日全国発売 企画協力:環境省那覇自然環境事務所